

授業研究の考察

2学年2組 算数「かけ算（2）」

【自力解決】導入の段階で、○の数を1つずつ数える活動を入れたことにより、同じ数ずつまとめて数えるよさに気付くことができた。そのことで、各自が自力解決への見通しを持ち、意欲的に取り組むことができた。

【自分の考えを表す活動】○を同じ数ずつ囲むことにより、「何個ずつ、いくつ分（～の何倍）」を意識して立式し、○の数を求めることができた。

【意見の交流】ペア学習で、ワークシートに書いた自分の考えを伝え合い、互いのよさに気付き合いながら、協力してホワイトボードに図や式を使ってまとめることができた。また、互いに教え合い学び合うこともできた。

【全体の意見の交流】ホワイトボードを分類して提示し、それぞれが考え方を説明することができた。その場合、他の考え方との比較がより明確にでき、積極的に意見の交流を図ることができた。

【学習のまとめ】既習事項を用いて課題解決をする場の設定を工夫することにより、興味や関心が高まり、意欲的に取り組むことができた。そのことで、学習内容の定着も図ることができた。また、自分の考えをもって話し合うことで、友だちの考えとの比較や検証ができるようになってきた。互いのよさに気付くことができるようになってきたことも大きな成果といえる。

6学年2組 算数「面積」

【自力解決】本時の学習につながる既習の面積の公式を確認し、児童はそれを活用して問題を解く見通しをもった。3つの問題のヒントカードを時間差で出すことで、問題の難易度にそって取り組むことができた。

【自分の考えを表す活動】児童一人ひとりが解決方法を説明する問題を3つの中から選び、言葉、図、式を使って解決の方法を表現していた。

【意見の交流の活動】グループの話し合いの場で、自分の考えの根拠を説明したり、友達の説明を聞いて自分の考えと比較したりしていた。

【全体の意見の交流】数人の児童が、ホワイトボードを提示しながら、グループで話し合った考えを説明することができた。児童が、説明の中で具体的な数字や算数用語を使用しなかった場合は、教師が児童に問い直しながら補い、より数学的な表現になるように導いた。

【学習のまとめ】本時の学習をもう一度教師の言葉でていねいに押さえた。最後にもう一度、児童1人ひとりに友達の説明の良い点を参考にしながら、算数用語をきちんと使って説明を書くように促し、学習内容の定着を図った。

昨年度の課題である話し合いの質を高めること、ベストアンサーを示すこと、学習のまとめを確実にを行うことを意識した授業を行うことができた。時間を過ぎてしまった点は課題ではあるが、昨年度より一歩進むことができていた。

学校全体での取組

研究主題 「活用する力を高めるための授業改善 ～算数科を中心として～」

活用する力を、小学校学習指導要領では、「思考力・判断力・表現力」と捉えている。このことを踏まえ、本校では算数科における活用する力を下記のように考え、活用する力を高めるために必要な活動を精選し、仮説を立てた。

算数科における活用する力

問題を解決するために、与えられた情報を整理して必要なものを選び、既習事項や知識と、問題とを関連付けながら考えて解決し、解決の方法やその根拠を数学的に表現する力

活用する力を高める5つの活動

- ①題意を正しく把握し、問題を解決するために必要な情報を選び出す。
- ②前学年や前単元で学んだ内容や自分の持っている知識と問題の類比や対比を通して、どのように解決するか見通しをもつ。
- ③自分の考えを言葉、数、式、図などで書き表す。
- ④意見の交流をし、より数学的な解決方法、より適切な説明方法について吟味する。
- ⑤学習のまとめをする。

【仮説】上記の5つの活動を盛り込んだ授業展開を行えば、児童は主体的に学び活用する力が高まるのではないだろうか。

指導案の学習過程に「つかむ」「考える」「深める」「ふり返る」を明示して活用する力を高めるための活動を位置づけ、授業研究会を行って協議を続けてきた。また、授業のめあてを児童に明確に伝え授業後に振り返りをさせること、やまぐち学習支援プログラムを活用して復習していくことを具体策として位置付け、日々の授業で取り組んできた。

このような取組を続けてきたところ、昨年度は一斉指導主体の授業からペアやグループ学習で自分の考えを言ったり書いたりする活動を多く取り入れた授業に変化していった。児童は、低学年から高学年まで話し合い活動に楽しんで取り組む様子が見られるようになった。また、本年度の全国学力・学習状況調査では、算数科のA問題で県の平均を上回ることができ、B問題（活用する力）についても大きく飛躍することができた。

本年度は、昨年を取組を踏まえながら、見えてきた課題である「教え合い高め合う質の高い話し合い活動」、「ベストアンサーの明示」「学習のまとめをする時間の確保」の3点の改善を目指し、授業研究を進めていくことができた。